

## 競技要項（大会特別規定）

- 第1項 ベンチは若番が一塁側、ロージンは両チーム、ボールボーイは両チーム2名とする。（ボールボーイは原則ベンチ入り選手とする）
- 第2項 各チーム派遣の審判員は、**別紙対戦表に明記された審判を原則**とし、不都合がある場合は各リーグで協議を行い、適宜調整することができる。
- 第3項 各球場のグラウンドルールは、試合開始前に各会場の責任審判員により説明を行う。
- 第4項 本大会はリーグ戦を採用し、全チーム総当たり戦を行う。（**リーグ戦の競技詳解については別添参照**）
- 第5項 試合は7回または2時間制とし、5回をもって試合成立とする。（5回までは2時間超えても試合を行う）なお、試合成立後の延長戦は行わず、即タイブレイク（最大3回：1アウト満塁）を行い、それでも**同点の場合は勝敗抽選を行わない（引き分けで処理する）**
- 第6項 **4回10点差および5回以降7点差をもってコールドゲームとする。**
- 第7項 **メンバー交換は前試合4回終了後**、大会本部が指定する場所にて、**監督・代表選手1名が集合**し、所定のメンバー表（**5部**）を提出し、担当審判員並びにリーグ役員立ち会いのもと先攻後攻を決定する。
- 第8項 試合前のシートノックは7分間とし、ノック時のボールボーイは必ずヘルメットを着用する。  
なお、天候によってはサイドノックに変更する場合もある。（原則、各補助員は登録選手に限る）  
**シートノックを行う場合は、サイドノックを行うことを禁ずる。**
- 第9項 **試合前にノックやトスバッティングを行うことを禁止する。**但し、外野フィールドにおいては、アップシューズ着用に関り（土でも芝生でも）、アップやキャッチボールを認める。
- 第10項 次試合チームの**先発バッテリー1組に限り、メンバー表交換後**、ブルペンに入って投球練習を行うことが出来る。（但し、ブルペン入場は、試合進行を妨げないよう細心の注意を払うこと）
- 第11項 **ブルペン捕手は、スタンディングの場合であっても必ず防具を着用（特にキャッチ面）**し、捕手の安全を守る保護選手を1名帯同させること。（保護選手も必ずヘルメットを着用すること）
- 第12項 **本戦出場が決まったチームが棄権**した場合は**本戦不戦敗**とし、該当リーグから**繰り上がり出場は認めない**。（該当リーグの3位チームが繰り上がり出場しない）

## その他の注意事項

- 各チームは、会場到着後、速やかに大会運営本部が指定する受付手続きを行うこと。
- 各チームは、当日の試合が全て終了し、会場を退出する際は、大会運営本部が指定する退場手続きを行い、「次回指示書」を受け取ること。
- 各チームの放送係は、第1試合の試合開始40分前までに必ず名札を付けて待機しておくこと。
- 審判へのお茶出しのアナウンスは行わない。（**4回終了後のメンバー表交換のアナウンスは行う**）
- 試合成績表の記録者は、名札を付け**予備球を持って記録室に入室**のこと。
- 各チーム応援団は、鳴り物やメガホン**2本**を叩いたり、**球場器物を叩いての応援を禁止**する。
- 本大会は**関西連盟が指定するソーシャルディスタンスに定められた規程を遵守**すること。

# リーグ戦における競技要項の詳解

春季リーグ戦、競技要項第4項については、下表のとおり行う。

試合成立	5回完了
正式試合	7回
勝ち点制	4回コールド（5点）5回コールド（4点）勝（3点）引分（1点）負（0点）
リーグ順位	勝数 > 勝点 > 少失点 > 得失点差 > 多득点 > 直接対決で勝利 > <u>本部抽選</u>
本戦枠順位	得失点率 > 失点率 > 得点率 > <u>本部抽選</u> ※得失点率（得点率-失点率）失点率（総失点÷総守備イニング）得点率（総得点÷総攻撃イニング）
棄権試合	<b>棄権対戦チーム：勝点3、スコア7-0（7イニング消化：棄権側が後攻）</b>
球数制限	<b>あり（一日：90球以内、2日間で130球以内）※4連投禁止</b>
時間制	あり（2時間制）
コールド	あり（4回：10点差、5回以降：7点差）
延長戦	<b>なし</b>
タイブレーク	<b>あり</b> （1アウト満塁：最大3イニング）
抽選決着	<b>なし</b> （引き分けで処理）
審判	本部1名、各チームから1～2名ずつ派遣
禁止事項	一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム ※全て原則

上表の詳解については下記のとおり。

## 試合成立ならびに正式試合

試合は7イニングまで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合には例外とする。

- 1 試合成立（5回完了）までは、2時間を超えても試合を行います。
- 2 後攻チームがリードしたまま攻撃中に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

## コールドゲーム

4回10点差 または 5回以降7点差。（大会中に棄権した場合、対戦相手は7-0の5回コールド勝ちとする。

※勝ち点ポイントは4点加算

## タイブレイク

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

### ！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ **タイブレイク戦**は正式試合終了後、**同点の場合は必ず適用**します。（2時間超えていても必ず実施）  
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。  
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。  
7回終了後、同点の場合は、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中で**2時間を経過しても、途中で打ち切りません。**
- ・ 最大3イニングのタイブレイク戦を戦い、**それでも同点の場合は勝敗抽選等を行わず、両チーム引き分けて処理すること（両チームに加点1）**

## サスペンデッドゲーム（特別継続試合）について

降雨及び日没などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

### 適用するケース

- ・ 試合が成立する前（5回完了する前）に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

### 特別継続試合のルール

- ① 中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない。**
- ② 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- ③ **投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）**
- ④ 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。
- ⑤ 特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注1）特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2）**試合成立後（5回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません。**

注3）試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

**※タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、引き分けて処理するものとする。**

**（その時点の加点やリードなどは一切反映されない）**

注4）試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることとはできない。（日没の場合も含む）